

注意点1



指の腹部分はNG！
弦は指先で叩こう

左指で弦を叩くことで発音するテクニックを“ハンマリング”と言う。指の腹部分を使うと発音が弱くなる事が多いので、指先を使って弦をしっかりと叩くように心掛けることが大切だ(写真①～④)。ビギナーは音量を出すために、指を必要以上に大きく振り上げてしまうことがあるが、実際には弦を叩く瞬発力に気を配るとよいだろう。



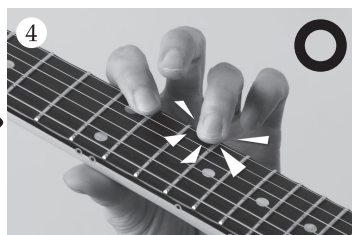
誤ったハンマリングの弾き方。



指の腹部分で弦を叩くと、ノイズが発生する。



正しいハンマリングの弾き方。



指先で弦を叩くことによって、発音がクリアになる。

注意点2

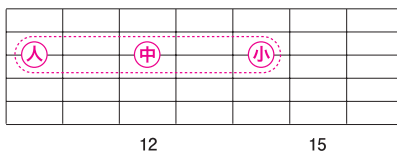


人差指・中指・小指の
3本指はセットで動かせ！

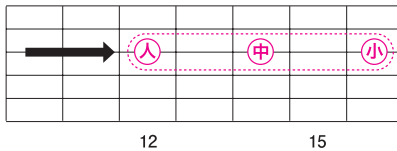
メイン・フレーズ4小節目は、“人差指・中指・小指”というフィンガリング・フォームをキープしながら、ハンマリングと横移動を行なうことがポイントになる(図1)。この3本指のフォームが乱れると、的確にハンマリングができなくなるので気をつけよう。また、小指のハンマリング時に、人差指と中指も押弦しておくとうい。

図1 メイン・フレーズ4小節目のポジション

・ 1拍目～2拍目オモテ



・ 2拍目ウラ～3拍目



“人差指・中指・小指”の3本指を1セットにして横移動させよう。

～コラム8～

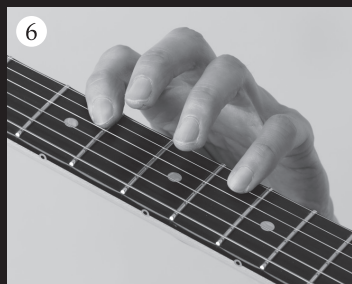
地獄の戯れ言

フィンガリング・フォームは、親指でネックをしっかり握り込む“ロック・フォーム”と、親指をネック裏に軽く添える“クラシック・フォーム”の2種類がある(写真⑤&⑥)。前者には、チョーキングやビブラートが掛けやすい、後者にはストレッチがしやすいというメリットがあるので、フレーズに合わせて使い分けられるとよいだろう。

フレーズ内容に合わせて
ふたつのフォームを使い分けるべし！



親指を使ってネックをしっかり握り込むフォーム。低音弦のミュートがしやすいというメリットもある。



親指をネック裏に置くので、指が開きやすくなる。スピーディなレガートなどで活用するとよいだろう。

【瞬発力】どんなに指に力を入れても、弦をゆっくり叩いたら、ハンマリング音は弱くなってしまいます。名ボクサーのジャブのように、カミを抜いて、弦をスピーディに打つべし！